

<実践事例>

ラーニングコモンズにおけるオンライン学習支援の試み

川面 なほ¹・今橋 裕²

雄飛館ラーニングコモンズは、2014年の開設以来、学生の主体的な学びを支援することを目指し、さまざまな学習環境を提供している。本稿は2020年春学期において、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い取り組んだ、オンラインによる3つの学習支援について報告する。

1つ目は、授業開始までの短期間に実施した課題提出型情報提供である。新入生を対象とし、大学での学びに関する課題提出型の情報提供を行った。提出された課題にはコメントをつけて返却をした。2つ目は、個別学習相談である。電話・メール・Microsoft Teamsを使い、学習に関する課題や疑問についてのアドバイスをを行った。3つ目は、ミニ講座である。レポートに関する基本的な知識を理解し、レポート作成に役立てるためのミニ講座を実施した。

これらの取り組みから、迅速にオンラインによる新しい学習支援を学生に提供できたこと、主に初年次生の学びを支援できたこと、ラーニングコモンズが「学習支援の場」であることを学生に認識してもらうことができたこと、の3つが成果として示された。

本稿では、これらの取り組みの方針や工夫、具体的な内容、成果、課題について学習支援の一例として報告する。

キーワード: 学習支援、教育支援、ラーニングコモンズ、オンライン学習

1. はじめに

本学の雄飛館ラーニングコモンズは「共に学び、共に創る」をキーワードに、2014年に開設され、グループワークをはじめとする学生同士の学びの場として活用されている。ラーニングコモンズには学習支援員が常駐しており、アカデミックスキルの向上を目的とした取り組みを企画・実施している。

現在、学習支援として、①個別学習相談、②ワークショップ、③授業連携によるワークショップを行っている。「個別学習相談」は、学習の進め方やレポートの書き方など具体的な相談への支援を行っている。「ワークショップ」では、ノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法などのアカデミックスキル(スタディ・スキル)に関するワークショップを企画・実施している。「授業連携によるワークショップ」は、教員の要望に応じて授業の一コマを利用し、学習支援員がラーニングコモンズで実施しているワークショップを実施するものである。

ちなみに、昨年度の学習支援の利用状況は、個別学習相談が10件、ワークショップ参加者が49名(69回開催)、授業連携ワークショップが6件であった。ワークショップ参加者への利用後のアンケート(回答47名)では、

「アドバイスはわかりやすかったですか」との問いに、43名が「そう思う」と回答している。また、コメント欄には「詳しいアドバイスや具体例があつてよかった」や「疑問が解決できた」などの感想が見られた。これらのことから、ラーニングコモンズの学習支援における課題は、利用者の満足度は高いものの、利用者数が低調であることであった。

このような中、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため、春学期の授業開始が予定より1か月延長となった。本稿では、2020年春学期に実施したオンラインによる3つの学習支援の取り組みを、実践事例として報告する。

2. 取り組みの概要

オンラインによる学習支援として、課題提出型情報発信、個別学習相談、ミニ講座の3つの取り組みを実施した。課題提出型情報発信は、新しく企画し実施したものである。学習相談およびミニ講座は昨年度、ラーニングコモンズにて対面で行っていた内容を、オンラインに変更したものである。なお、情報発信は学内ポータルサイトであるPOST(ポスト)を通じて行った。表1に3つの取

¹ 京都産業大学 教育支援研究開発センター、² 松山東雲短期大学 現代ビジネス学科 (当時 京都産業大学 教育支援研究開発センター)

り組みのスケジュールを示す。概要は以下のとおりである。

■課題提出型情報発信

実施期間:4月10日～4月29日

主な対象:新入生

目的:大学での学びへの興味や関心が持続するように、「大学での学び」の情報提供を行う

内容:授業で役立つ「大学での学び」に関する情報提供を行う。情報とともに課題を提示し、期間内提出者にはコメントをフィードバックする。

掲示日と内容:

4月10日:ラーニング commons の紹介と課題の告知

4月10日:「大学と高校の「学び」は違う?」

4月16日:メールの書き方の紹介

4月17日:「文章を3回読んでみる」

■個別学習相談

実施期間:4月7日～8月7日

主な対象:1～4年次生(4月は主に2～4年次生)

目的:学習に関する疑問や悩みを解決する

内容:学習に関する課題や疑問についてアドバイス

を行う。

掲示日と内容:

4月 7日:電話による個別相談開設のお知らせ

5月29日:オンラインによる個別学習相談開始のお知らせ

■ミニ講座

実施期間:6月1日～8月7日

主な対象:2～4年次生(6月中旬以降は1年次生を追加)

目的:レポートに関する基本的な知識を理解し、レポート作成に役立てる

内容:レポート作成に必要な情報を紹介するミニ講座を実施する。

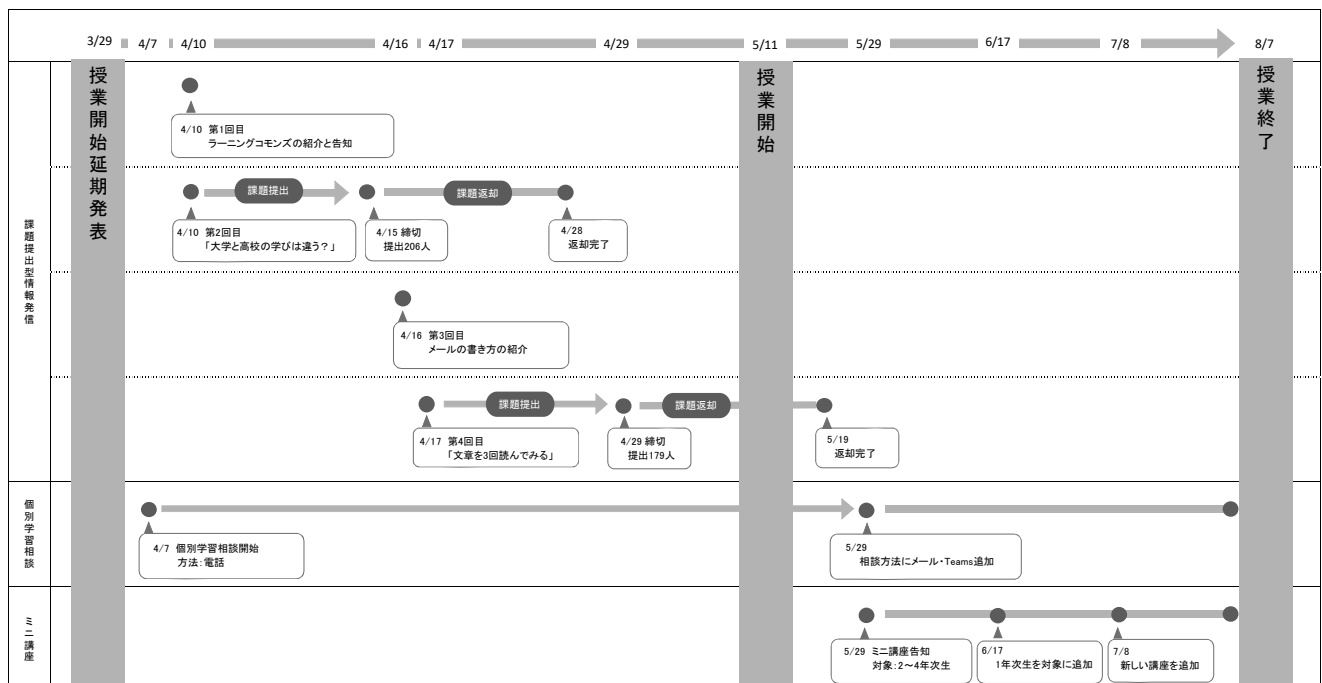
掲示日と内容:

5月29日:ミニ講座「レポートの書き方」告知

6月17日:ミニ講座「レポートの書き方」1年次生開始

7月 8日:新しいミニ講座開始

表 1. 3つの取り組みのスケジュール



3. 課題提出型情報発信「授業前にできることをやってみよう」

3.1. 取り組みの方針・工夫

新入生を対象とした学習支援について検討した。特に新入生は、授業開始が1か月遅れたことにより、大学での学びについて不安を感じたり、何をすべきか困惑したりしているのではないかと考えた。また、新入生にとって新学期は、大学での学びへの興味や関心が高いことが予想された。そのため、授業開始までの短期間に学習に関する情報提供を行うこととした。

情報提供を行うにあたり優先したのは「スピード感」と「双方向性」であった。授業が開始するまで、具体的な学習に関する指示や情報が提供される可能性が低いと考え、授業開始延期決定直後より情報提供を開始した。また、一方的な情報として受け流されないように、情報提供に加えて、それに関連した課題を提示した。期限

内に提出された課題は、学習支援員からのフィードバックを行うこととした。

短期間に双方向性のある課題提出型の情報を提供することによって、学生の学びへのモチベーションの維持との新しい対話が生まれることを期待した。

そこで、授業開始までの1か月間を前向きに捉えられるように、この取り組みを「授業前にできることをやってみよう」と呼ぶことにした。表2に「授業前にできることをやってみよう」のねらいと内容を示す。

3.2. 各回の内容

昨年度のワークショップ参加者から出た疑問や質問を踏まえ、初年次生が戸惑ったり、困ったりすることが予測される大学での学びに関する事柄をテーマとした。具体的には、「高校と大学の学びの違い」、「書籍の読み方」、「メールの書き方」とした。

表2. 「授業前にできることをやってみよう」のねらいと内容

掲載日	ねらいと内容
第1回目 4月10日	<ul style="list-style-type: none"> ○ タイトル 授業スタート前にできることをやってみよう ○ ねらい ラーニングコモンズは、学習相談やミニ講座実施などを行っていることを知る ○ 内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングコモンズが学習支援の場であることの紹介 ・次回以降に、授業に役立つ学び方のコツを紹介することを告知 ○ 課題 なし
第2回目 4月10日	<ul style="list-style-type: none"> ○ タイトル 大学と高校の「学び」は違う？ ○ ねらい 大学での学びは、根拠を示しながら自分の考えを作るための方法を学ぶ場所であることを知る ○ 内容 <ul style="list-style-type: none"> ・大学と高校までの学びは、少し違うことを紹介 ・大学での学びでは、「自分の考え」とその根拠を示すことが求められる ○ 課題1 3つのテーマ(春の甲子園中止、マスク不足、東京五輪延期)から好きなテーマを1つ選び、そのテーマに関する記事を読み、記事を要約し、250字以内で自分の意見を述べよ ※提出締め切り期限は4月15日
第3回目 4月16日	<ul style="list-style-type: none"> ○ タイトル 大学生としてのメールの書き方について ○ ねらい 教員や地域の方などに、メールを送る際のマナーや注意点を知る ○ 内容 <ul style="list-style-type: none"> ・メールを送る際には、件名を必ず明記すること ・内容は簡潔にまとめ、文末には署名を入れること ○ 課題 なし
第4回目 4月17日	<ul style="list-style-type: none"> ○ タイトル 文章を3回読んでみる ○ ねらい 文章は視点を変えて複数回読むと、内容を深く理解することができる ○ 内容 <ul style="list-style-type: none"> ・複数回読むことによって、著者が伝えたいことが何か、著者の意見に対する自分の意見を整理することができる ○ 課題2 藤原辰史『パンデミックを生きる指針』を3回読んで、 (1)1回目に読んだ感想、(2)2回目に読んで気づいた著者が言いたいこと、(3)自分の意見をまとめよ(各項目につき100字以内)。 ※提出締め切り期限は4月29日

表 3. 課題 1 の提出者の学部・学年および学部内の提出者の割合

学部	1 年次 (人)	他学年 (人)	合 計 (人)	1 年次生の 学部内提出 の割合
経済	26		26	4 %
経営	30		30	5 %
法	38	1	39	6 %
現代社会	34		34	8 %
国際関係	15		15	8 %
外国語	17		17	4 %
文化	17	1	18	6 %
理	7		7	5 %
情報理工	12		12	8 %
生命科	8		8	6 %
合計	204	2	206	6 %

受付期間は 4/10～4/15

また、学生が気軽に読めるようにエッセイのような軽い文体とし、文字数は 500 字程度とした。

3.2.1. 第 1 回目 紹介と告知

第 1 回目の掲示では、「新入生のみなさんへ」と題し、ラーニングコモンズの紹介と課題の告知を行った。新入生にとってラーニングコモンズという施設に馴染みがなく、どのような場所かイメージできない可能性があったからである。そのため、ラーニングコモンズが学習支援の場であることを紹介し、次回以降に、勉強に役立つ情報と課題を提供することを告知した。

3.2.2. 第 2 回目 大学と高校の「学び」は違う？

第 2 回目の掲示では、「大学と高校の「学び」は違う？」と題し、大学での学び方の違いを紹介した。大学では自分の意見とその根拠を示すことが求められることを説明し、新聞記事を読んで自分の意見をまとめることをねらいとした課題を提示した。

課題の新聞記事は、春の甲子園中止、マスク不足、東京五輪延期のいずれかの 1 つを選ぶものとした。テーマは、当時、ニュースで大きく取り上げられており、多様な視点からさまざまな議論がされているものであった。また、気軽に課題に取り組めるように文字数を 250 字以内とした。

表 4. 課題 2 の提出者の学部・学年および学部内の提出者の割合

学部	1 年次 (人)	他学年 (人)	合 計 (人)	1 年次生の 学部内提出 の割合
経済	24	1	25	4 %
経営	27		27	4 %
法	28	1	29	5 %
現代社会	38	2	40	9 %
国際関係	11		11	6 %
外国語	21		21	5 %
文化	14		14	5 %
理	3		3	2 %
情報理工	5		5	3 %
生命科	4		4	3 %
合計	175	4	179	5 %

受付期間は 4/23～4/29

3.2.3. 第 3 回目 メールの書き方

第 3 回目の掲示では、「メールの書き方」を紹介した。大学生になると、教員への授業に関する質問や地域の方々に対してメールを送る機会が増えるため、このような情報が必要であると考えた。

件名を明記すること、最初に自己紹介をすること、文章は簡潔にまとめることなどを紹介した。

また、第 2 回に提示した課題の提出の際に、件名がない、送り主が名乗らない、などのメールが散見されたことも、このテーマを第 3 回に選んだ理由の一つでもあった。

3.2.4. 第 4 回目 文章を 3 回読んでみる

第 4 回目の掲示では、「文章を 3 回読んでみる」と題し、書籍や文章の読み方について紹介した。大学ではたくさんの文章や書籍を読む機会があり、書籍は複数回読むことによって、その内容の理解が深まっていくことを紹介した。そして、テキストを 3 回読んで、読み進めるごとに内容への理解を深めることをねらいとした課題を提示した。

課題文は、藤原辰史著『パンデミックを生きる指針』とした。歴史・政治・科学・家庭生活など多様な視点から今回の私たちが置かれている状況を見ることができる内容であったため、いずれかの視点に学生の興味や関心が当てはまることを期待し、上記の文章を課題文とした。

3.3. 提出課題への評価方法

メールにて提出された学生からの課題へのコメントは、ラーニングコモンズ学習支援員の2名が担当した。提出された文章は、各課題に設定した3つの視点(課題1: テーマ選び、根拠の提示、文章作成の作法、課題2: 著者の主張を理解できているか、自分の考えの提示、文書作成の作法)から三段階で評価するとともに、担当者が具体的なコメントを作成した。コメントは、大学での学習活動前であることを考慮し、内容には踏み込まず、良い文章になるようなワンポイントアドバイスを行うように心がけた。作成したコメントは、メールに添付して返却した。

3.4. 実施結果

課題提出者は、課題1「大学と高校の「学び」は違う?」206名、課題2「文章を3回読んでみる」は179名であった。また、学年別および学部別の提出者数は表3、表4のとおりである。2回とも提出した学生は101人であった。在学生の割合から見ると、現代社会学部、国際関係学部の提出が多かった。また、対象としていなかった、2年次生2人、3年次生1人、4年次生3名からの提出もあった。

3.5. 小括

想定していたよりも多くの学生からの課題提出があった。課題提出が多かった理由の1つとして、新型コロナウイルスを課題のテーマとしたことが考えられる。多くのニュースに触れる中で、新型コロナウイルスは、学生にとって身近なテーマであり、自分なりの意見や考えを持っていたのではないだろうか。その学生の意識が、課題に取り組むきっかけになったのではないかと考える。

また、授業開始までの時期に大学での学びに対して興味や関心が高く、「何かしたい」という強いモチベーションが学生にあったのではないかと推察することができる。

提出された課題を通じて、学生の興味や関心事を知ることができ、今後の取り組みの参考となった。さらに、課題の提出・返却の際に、提出した課題への意見や今回の取り組みに対するコメントなどが添えられていた。ささやかではあったが、学生とのつながりを感じる事ができた。

4. 個別学習相談

4.1. 取り組みの方針と工夫

授業開始までの期間に、学生に対して、これまでの自分の学習を振り返り、学習に関する課題や不安を解決し、新学期を迎えられることを目指し、学習相談を行うこととした。

情報発信については、4月に授業開始延期が決まる中で、POSTを通じて多くの情報が発信されていたため、我々が発信する情報が学生の目に留まるように、タイトルと掲示文面は、簡潔になるように心がけることとした。そのため、タイトルを「電話学習相談開設; 困ったら、お電話ください」とし、学生が気軽に相談できるように、掲示文には、「学習の内容についていけない気がします」や「レポートに何を書いたらよいかわかりません」などの具体的な相談内容を示した。

4.2. 相談方法

相談時間は1人につき30分程度とし、メールによる事前申込制とした。実際の相談は、対話できる方が良いと考え、最初は電話のみとした。ICT環境が整い始めた5月以降は、学生の希望にあわせて、電話、メールに加えて、授業での利用が始まっていたMicrosoft Teamsでのオンラインによる相談も受け付けた。

4.3. 運用方法

対応時間は、毎週月・水・金曜日の10時～16時とした。予約を受け付けた際に、メールにて具体的な相談内容を尋ねて、担当者が事前に相談内容を把握し準備できるようにした。

4.4. 実施結果

相談件数は、29件であった。相談方法は、電話23件、メール3件、Microsoft Teams3件であった。相談学生は、1年次生19名、2年次生6名、3年次生3名、4年次生1名であった。

学生によっては複数の相談があったが、主な相談は、レポートの書き方について13件、勉強方法について10件、パソコンについて7件などであった。新入生からは「授業前に予習がしたいが、何をすればよいか」「レポートを書いたことがないので、レポートの書き方を知りたい」「大学での授業は、どんな感じなのか」「パソコンは購入した方がよいか」のような新しい学習環境に対する相談が多く見られた。2～4年次生については、「自分の意見が書けない」「文章がうまくつながらない」などの具体的なレポートの書き方への質問が多く見られた。結果の分類は、表5に示す。

4.5. 小括

当初に想定していた2～4年次生からのアカデミックスキルに関する相談は少なかった。

実際には、新入生から、大学での学び方、履修登録の方法、パソコンの必要性など、学習方法以前の相談が多く見られた。また、2～4年次生においては、主にレポートの書き方に関する具体的な質問が多く見られた。

また、語学学習や履修登録、奨学金などについての

相談は、学生と一緒にウェブサイトを確認する、適切な担当部署に対応を依頼するなどして対応した。

結果としては、想定通りの取り組みにはならなかったが、昨年度の対面時よりも多くの学生から学習に関する具体的な課題を聞くことができた。特に新入生が感じていた学習に関する不安や疑問を把握でき、解決に向けたアドバイスを示すことができた。

個別学習相談を通じて、ラーニングコモنزの存在を初めて知った学生も多く見られたことから、「学習に関する相談ができる場所」としてのラーニングコモنزの存在を認識してもらうきっかけになったのではないかと考える。

表 5. 主な相談内容と相談者の属性

相談内容	件数	学年	件数
レポートの書き方について	13	1年次生	19
勉強方法について	10	2年次生	6
パソコンについて	7	3年次生	3
履修方法について	4	4年次生	1
資格取得について	4		
POST・Moodle の使い方	3		
奨学金の申請について	1		
授業開始までの事前勉強	1		

5. ミニ講座

5.1. 取り組みの方針・工夫

レポートの提出が多いことが予想されたため、レポートの書き方に関する基本的な知識やポイントを理解し、レポート作成に活用してもらうことをねらいとしたミニ講座を開始した。受講は、申込者との1対1による講座とした。また、グループでの受講も可能とした。

最初は「レポートの書き方」の開催を開始し、7月以降は、「レポートの書き方」に加えて、「資料の探し方」と「自分の意見の作り方」をテーマとして開催した。

また、開始当初は対象をレポートの作成の経験がある2～4年次生とした。初年次生からの問い合わせが増え始めた6月半ばからは、対象を全学年に変更した。

なお、昨年度までは企画名を「ワークショップ」としていたが、今年度は「ミニ講座」と表記することにした。これは、「ミニ講座」の方が学生にとって何をするのかイメージしやすいのではないかとという教員からのアドバイスがあったためである。

5.2. 実施方法

実施時間は30分～40分とした。メールによる事前予約制とし、申し込みの際に、希望日時と講座名（「レポー

トの書き方」「資料の探し方」「自分の意見の作り方」）を提示してもらい、開催はMicrosoft Teamsによるオンラインとした。

5.3. 運用方法

対応時間は、平日の3枠（10時～、12時～、15時～）とした。予約を受け付けた際に、受講の目的（何を知りたいのかなど）を尋ね、目的に合わせて、担当者が資料を準備できるようにした。

5.4. 実施結果

受講者数は、38名だった。そのうちグループでの受講申し込みが4組（8名）であった。テーマ別では、「レポートの書き方」は35名、「資料の探し方」は2名、「自分の意見の作り方」は1名であった。学年別では、1年次生30名、2年次生4名、3年次生4名であった。

講座終了後のアンケートによると、「アドバイスは今後の学習に役立つか」という問いに対し、32名の学生が「非常に役立つ」と回答した。また自由記述欄には、「オンライン授業の中、一人で考えるしかなかったのでアドバイスが聞けてよかった」、「自分のタイミングで質疑応答ができてよかった」などのコメントがあった。

5.5. 小括

新入生の「レポートの書き方」受講者が最も多かった。グループでの受講も可能としたが、多くの場合が個人での受講であった。

オンラインによる個別対応であったため、対面時よりも学生への問いかけが多くなり、学生からの発言や質問を引き出すことができ、活発なやり取りを行うことができた。

また、事前予約制であったため、学生からの具体的な質問を事前に尋ねることができたため、学生の状況に合わせた資料を準備することができた。

6. まとめ

本稿では、2020年春学期に実施したオンラインによる学習支援に関する3つの取り組みを報告した。今回の取り組みから、成果として3点を挙げることができる。

一つ目は、迅速にオンラインによる新しい学習支援を学生に提供できたことである。特に、初年次生を対象とした新しい試みとしてICT機器を用いた課題提出型の情報発信を行うことができ、学生からの良い反応を得ることができた。オンライン企画を迅速に提供できたのは、以前よりラーニングコモنزの利用者増加に向け、学習支援の新しい企画を検討していたためである。

二つ目は、主に初年次生の学びを支援できたことである。今回の取り組みにおける提出者及び受講者を見

ると、初年次生の課題提出数はのべ379名(全385名)、個別学習相談者数は19名(全29名)、ミニ講座受講者数30名(全38名)であった。結果的に初年次生のニーズに対応した取り組みとなっており、オンライン環境下での初年次生の学びに対する不安解消に一定の成果があったものといえる。

三つ目は、ラーニングコモンズが「学習支援の場」であることを学生に認識してもらうことができたことである。すべての取り組みへの広報はPOSTのみであったが、昨年度と比較すると、問い合わせや申し込み等の反応が良かったように感じる。今年度は特に、学生のPOSTに掲載される情報への注目度が高かったことが影響しているのではないかと考える。

最初に述べたように、昨年度までは学習相談やミニ講座への参加が低調であることが課題であった。しかし、今回のオンラインによる取り組みを通じて、初年次生をはじめとする学生に対して、ラーニングコモンズが「学習支援の場」であることを知ってもらう機会になったのではないかと考える。

なお、課題としては、グループワークなど学生同士が相互に学びあえる機会を提供できなかったことがあげられる。今後も、今年度の取り組みを参考に、学生の興味や関心を引きつけることができるような学習支援の方法について検討していきたい。

謝辞

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため、春学期の授業開始が予定より1か月延長となり、職員も2班制の交代勤務など、過去の常識が通用しない中、オンラインによる新しい形での学習支援を模索することとなりました。教育支援研究開発センター事務室による迅速かつ柔軟なサポートがなければ、この取り組みを実施することはできませんでした。ご協力頂いた関係者のみなさまに感謝申し上げます。

Learning Commons On Line Support

Naho KAWAZURA¹, Hiroshi IMAHASHI²

The Learning Commons has provided a variety of learning environments with the aim of supporting students' independent learning. This paper reports that in the spring semester of 2020, to prevent the spread of coronavirus infection, we worked on three learning support services before the online lectures started. This paper describes

three online learning support services.

-The first support service offers information about how to learn at the university for freshmen.

-The second is individual learning consultation using telephone, email, and Microsoft Teams.

-The third is a mini-course. The theme is based on "how to write reports".

The results showed that the quick learning support helped students have good responses and all of three services were especially useful for freshmen and for the students to recognize the learning commons is the place for their learning support. In this paper, we report on the policies and ingenuity of these efforts, specific contents, achievements, and issues as examples of learning support.

KEYWORDS: learning support, Educational support, Learning Commons, online learning

2020年12月23日受理

1 Center for Research and Development for Educational Support, Kyoto Sangyo University.

2 Department of Business Studies, Matsuyama Shinonome Junior College. (Before September 22, 2020, – Center for Research and Development for Educational Support, Kyoto Sangyo University.)